

Fons

黒磯バツケの想い出

河内の文化遺産を守る会 檜山浩

市境からR349を里美方面に車で二十分程北上し、「春友藤の屋」バス停前から春友彫刻の森方面に左折、里川を渡ると山裾の細い旧棚倉街道に突き当たる。トイレや駐車場が整備されている春友彫刻の森運動公園を左に見ながら北上続けると鎌倉坂に至り、間もなく左手に「黒磯バツケ」の案内板が現れる。ここから登山道となり杉林の中を十五分程進むと、尾根道の急登となり十分ほどで「ビューポイント」となる。

想えば小学生時代に登ったのが最後、その後上京して社会人となり、十六年前、定年を期に帰郷し五十年ぶりに登った。登山道は荒れ果て尾根筋の眺望も無く、かつての面影はなかった。

その年の秋口から弁当持参で登山ルートの開拓を始めた。急こう配のルートにはトラロープを張り、岩壁にはザイルを張って雑木を伐採し「ビューポイント」を作った。汗を拭き一服すると、彼方からは閉校となった河内小学校の運動会の行進曲が聞こえた。翌年からは「河内の文化遺産を守る会」に加入し、会員と共に毎年数回、登山道の草刈や整備を行い、現在は登山客も着実に増えている。

ビューポイントから眼下には二十軒程の「黒磯集落」、里川を挟んで旧棚倉街道「町屋の宿」、彼方には高鈴山(623m)がそびえ、素晴らしい眺望が楽しめる。尾根筋を北に向かい、「町屋宿」の小さな案内板が見えたら、これを右手に下ると九十九折となる。そのまま間もなく「町屋滝」を眺め、「黒磯集落」の北端に下山する。この先にはNHK朝ドラ「ひよっこ」で、奥茨城村役場支所として放送された「旧町屋変電所」があり、敷地内に別棟でトイレが完備されている。

幼いころからの思いを整備へと突き動かしてくれた景色。帰郷して家から毎日眺めるバツケは、かけがえなく愛しいもので私の一生の宝です。

紅葉の

黒磯バツケ

黒磯バツケ

標高236mの黒磯岳東側のガケを言います。町屋の宿場を見下ろすようにじつとたたずんでいます。また「バツケ」とは、抜群の「抜景（バツケ）」という説と「絶壁」という意味から「バツケ」という説があります。

黒磯バツケからの眺め



色ついた山肌から見下ろす町屋の風景

つる植物

テイカカスラ ノブドウ
キツタ セニンソウ
キシヨラン サルトロイイバラ
ヘクソカスラ オニドコロ



① ノブドウ
実の色が変化して美しい



② セニンソウ
実に白いヒゲのよなものがつく

落葉のフカフカ道

石を抱えこんだ見事なケヤキ

ケヤキ

すご〜い崖と山並みがよく見える

町屋発電所跡

町屋変電所



イチョウの木と旧町屋発電所

町屋宿通り

滑入橋



③ デンジソウ

絶滅危惧植物！
デンジソウ生育地
シタ植物・花は咲かず地下で胞子ができて増える。
葉の形が漢字の「田」に似ていて、ひと昔は田んぼによく生息していた。



④ ツリフネソウ

野生のインパチエンス
実はさわるとはじける
ホウセンカの仲間



⑤ カタバミ

日本古来のもの
最近では外来のオッタチカタバミが多い

秋の木々：いろいろどりどり！

赤色：アカシデ ネジキ ヤマザクラ
ヌルデ ヤマウルシ
黄色：コナラ

秋の野草はさまざま！

ドライフラワー状になったり、不思議な形の実をつけたり、花は終わっても趣きのある姿を見せてくれる

サラシナショウマ ヤブミョウガ
キッコウハグマ フユイチゴ
ヌスビトハギ ダイコンソウ ガンクビソウ

木の実いろいろ

クヌギ シラカシ コナラ ガマズミ
ウラジロノキ オオバヤシヤブシ
ムラサキシキブ ヤブコウジ ケンポナシ



⑥ ウラジロノキの実



⑦ ムラサキシキブ

赤い実はきれいだが
おいしくないのを鳥は
知っていて好んで食へ
ない!!

紫式部、昔、紫色は
高貴な身分の人に好ま
れた



⑧ オオバヤシヤブシの実

若い緑色の実からお歯
黒にする液をとった



⑨ ガマズミ

たくさん赤い実をつけ
霜がふると甘くなる



⑩ ダイコンソウ

葉がダイコンの葉に
似ているといわれてい
るが?



⑪ サラシナシヨウマ

細長い花序が美しい



⑫ ヌルデ

虫こぶができる(ヌル
デミミフシ)
タンニンを含みお歯黒
に利用された

⑧ ⑥

⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔



⑬ フユイチゴ

花は夏、秋、実は冬、春
赤く熟した実はおいしい!



⑭ コウヤボウキ

高野山で茎をホーキと
して利用した



⑮ キッコウハグマ

葉の形が亀の甲羅の形
からキッコウ
ハグマはチベットのヤク
のシツポに似ていると
ころから名がついた

頂上
すごい崖

黒磯ハツケ
標高236m

素晴らしい展望

展望所 ㉓

黒磯ハツケ
入口

町屋橋

多様なシダ植物...

黒磯ハツケには50種以上が生育している

ベニシダ リョウメンシダ シケチシダ
ヤマヤブソテツ アイアスカイノデ ヤワラシダ
オオバノイノモトノウ ゲジゲジシダ ゼンマイ
ヌリワラビ シノブ オオヘンシダ トランオシダ
ミドリヒメワラビ オオイタチシダ ヘビノネゴザ
イヌワラビ ホソバナライシダ ジュウモンシダ
イワガネソウ クマワラビ マメツタなど



⑲ リョウメンシダ



⑳ ヒロハイヌワラビ



㉑ ヘビノネゴザ



㉒ ジュウモンシダ



㉓ ミサキカグマ



㉔ ハコネシダ



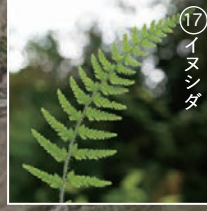
㉕ シノブ



㉖ ミソシダ



㉗ クジャクシダ



㉘ イヌシダ

新緑の

黒磯バツケ

新緑の森に冴える

白・あわいブルー・クリーム色の花々

コアジサイ（白とあわいブルー） ネジキ（白い小花）
ウツギ（白花） スイカズラ（黄と花）



②6 コアジサイ

野生のアジサイ



②7 ネジキ

ツツジの仲間



②8 ウツギ

白い花には昆虫がたくさん訪れる



②9 スイカズラ

花は白から黄色に変化する



③0 ウリノキ

花は小さくて目立たない



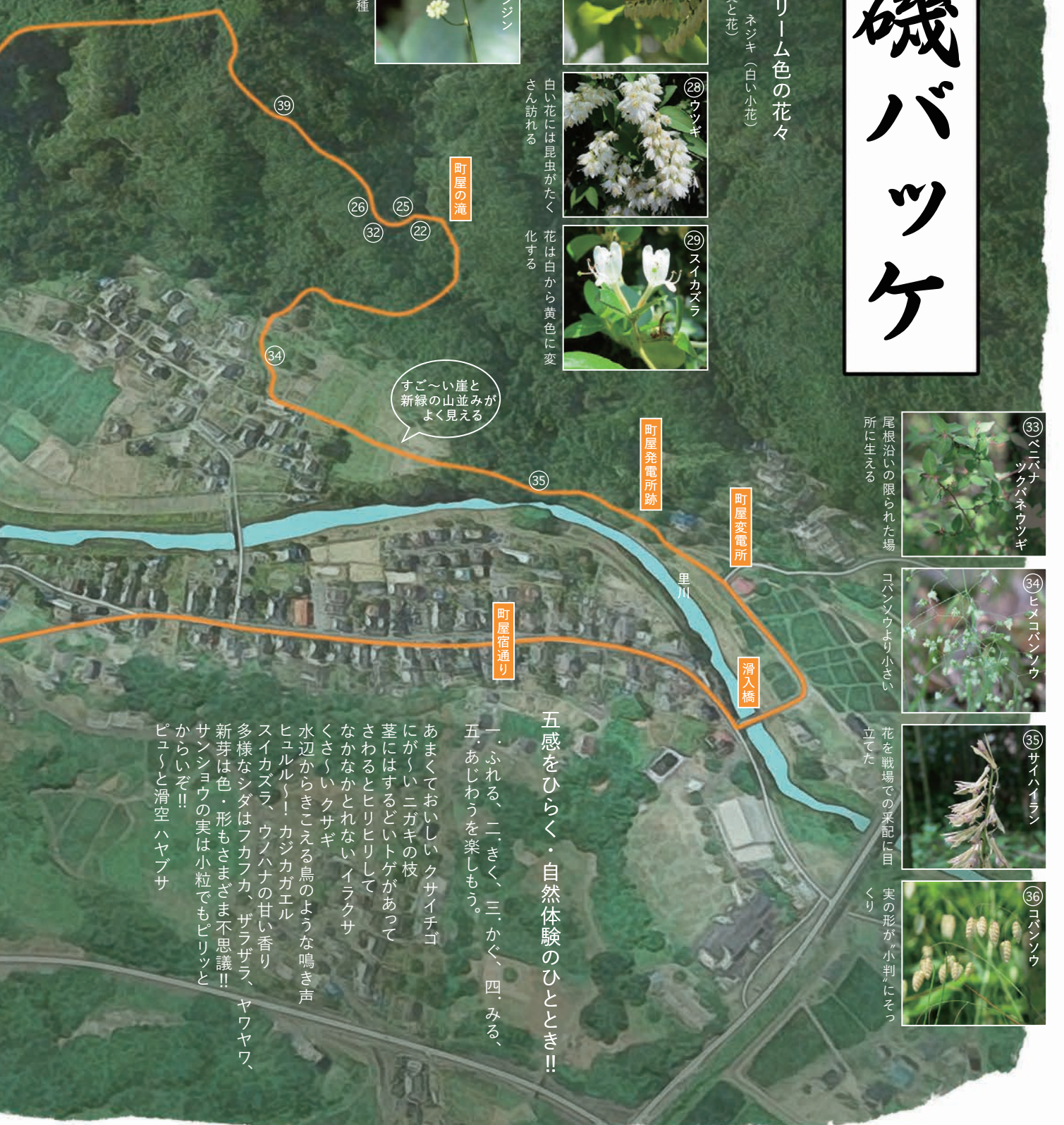
③1 トチバナジン

昔は薬草の一種



③2 セントウソウ

漢字では「仙洞草」と書き、山奥に生えるという意味



すご〜い崖と新緑の山並みがよく見える



③3 ヘニバナ

尾根沿いの限られた場所に生える



③4 ヒメコハンソウ

コハンソウより小さい



③5 サイハイラン

花を戦場での采配に目立てた



③6 コハンソウ

実の形が「小判」にそっくり

五感をひらく・自然体験のひとつとき!!

一. ぶれる、二. きく、三. かぐ、四. みる、
五. あじわうを楽しもう。
あまくておいしいクサイチゴにがしいニガキの枝茎にはするどいトゲがあつてさわるとヒリヒリしてなかなかとれないイラクサくさくさいクサギ
水辺からきこえる鳥のような鳴き声ヒュルル〜! カジカガエル
スイカズラ、ウノハナの甘い香り
多様なシダはフカフカ、ザラザラ、ヤワヤワ、新芽は色・形もさまざま不思議!!
サンショウの実の小粒でもピリッとからいぞ!!
ピュ〜と滑空 ハヤブサ

若い実をつけた草木

黒磯バツケ

ハナイカダ (緑色の実が葉上につく)
 ホウチャクソウ エノキ マタタビ
 サンショウ フユザンショウ



③⑦ ハナイカダ



③⑧ マタタビ

葉のまん中に花をつける。実は雌株につける

葉が白くて目立つ



③⑨ フユザンショウ

サンショウに似ていてより香りが強い



④⑩ キジヨモリン

つる植物でスギなどからみつ



④⑪ イヌシデ

シデの仲間には数種類あるが、この種類は葉に毛が多い



④⑫ オニトコロ

ヤマノイモの仲間です実が変わっている



④⑬ エノキ

一里塚の木、成長が早い



④⑭ ビナンカズラ

昔、樹液は頭髪を整えるのに利用されたという

春友彫刻の森

町屋の町並みと里川の流れがよ〜く見えます!

展望所

パイオニア植物が点在!

雑木林は伐採され、陽ざしが射し込んで明るい。伐採直後に繁茂する植物をパイオニア植物という。ナルデ アカメガシワ ヤマウルシなど

黒磯バツケ入口

町屋橋



⑤⑩ コウノリナ

茎が著しくザラつくのが特徴



⑤⑪ ウラシロチチコグサ

外来植物のひとつで急激に増えている



⑤⑫ ハハコグサ

路ばたに目立つ



⑤⑬ ユウゲシヨウ

園芸種が逃げ出したといわれている



④⑭ シラカシの新葉

いろいろとどりの緑



④⑮ クサイチゴ

実は甘くておいしい



④⑯ スズメヤリ

名前は花の形が槍のようで見られる



④⑰ ノアザミ

春のアザミの代表



④⑱ タチツボスミレ

スミレの仲間は多数あるが、この種類は最も普通に見られる

機初小学校体育館で活動するSUN Sは小学生女子のミニバスケットボールチームです。平成七年に指導者の阿部さんたちバスケット経験者が市内でもバスケットができる場所を作ろうと始めました。設立して数年後には県大会で優勝するなど県内でも強豪チームに成長したSUN S。阿部さんは特に基礎練習をしっかりと教えていて、中学校でバスケット部にいると「SUN S

でやっていたね」と言われるほどだそうです。

また、バスケットを通じて活動方針である四つの心(素直な心、頑張る心、思いやる心、感動できる心)や、マナーやあいさつといった社会教育を身につけることも大切に指導されています。「一人一人が自分の目的に向かって努力し、その結果が勝利に結



練習日/火、木曜(18:00~20:00)
土、日曜(9:00~12:00)
場所/機初小学校体育館
団員数/小学生女子10名
問い合わせ/阿部幸江(携帯:090-7712-8271)



文化の泉

日本盆栽協会太田支部

「取材」 黒羽 文男

盆栽は、鉢植えの樹木で、千年以上前に中国から伝来したと言われています。盆栽の究極のゴールは大自然の樹木を、理想の姿に小型化し、現実のものとして表現する事だと、前支部長の安島節郎さんは言います。社団法人日本盆栽協会常陸太田支部は、盆栽愛好家四十七名で昭和五十六年に発足しています。盆栽に向き合うときは常に「空間有美」という言葉を念頭に、枝と幹の空間の美しさをいかに見出すかを考えて取り組ん

でいます。常陸太田支部では、毎年、バルティホールで「秋季盆栽展」を開催しています。針葉樹、落葉樹、葉物、実物、花物等を、展示し、来場した方々に盆栽の醸し出す自然の豊かさや美しさを感じていただいています。盆栽を作り上げる技術は一朝一夕にはできません。著名な盆栽愛好家や、優秀な技術を持つ園芸業者を訪ね、視察研修を行っています。また、



人員構成/18名 活動日/年四回(展示会・講習会)
活動場所/講習会:生涯学習センター
展示会:バルティホール
活動費・年会費/年会費16,000円
連絡先/会長:川崎健之助 0294-72-6033
常陸太田市教育委員会文化課 0294-72-3201

びつきチーム全員で感動を分かち合えるのはひとしおです。」と阿部さんはおっしゃっていました。

会員相互で技術講習会を開催し情報交換をして盆栽づくりに取り組んでいます。盆栽に興味のある方を募集しています。

常陸太田の地名話

31

徳田『常陸太田市徳田町』

川松 博

徳田は当初小妻村の延長として小妻村や近隣諸村の人たちによって開発されたため、小妻新町と呼ばれた後に新町村として独立した。

開発の年代は定かでないが、寛永十二年(一六三五)

の史料に荒町(新町)村との記載があるので近世の初頭に開かれたものと思われる。

開発当初は、里川の東側の低地に宿並みを形成していた。しかし、度重なる洪水により、上と下にかかる橋が流され、人々は悩まされた。こうしたことから新町はいつしか荒町と呼ばれるようになった。そこで水害に悩まされた村民は宿並みを現在地の里川西側に移すことを藩に願い出て許され、寛文四年(一六六四)に移った。

しかしその後、たびたび火災が発生したことから貞享四年(一六八七)村民が一体となって村名の変更を願い出て、新町村を徳田村に改めたといわれている。

徳田の語源について、郷土史研究家の瀬谷房之助氏は、『里美地名の旅』の中で地名は吉、利、友などの好字や福、富、得(徳)などの縁起を願ったものが多く用いられ、徳田の場合、土地の開墾が終わり多くの作物が得(徳)られるとの思いから名付けられたようだと述べている。



茨城・福島県境にある境の明神

<参考文献>
「新編常陸国誌」「茨城県地名大辞典」
「里美村史」「里美の歴史散歩」
「広報さとり 128号・157号」



思い出の絵本

『ちいさなたまねぎさん』

松本めぐみ(春友町)

私がこの本と出会ったのは、息子が幼稚園の頃だったと思います。

幼稚園の頃の男の子は、特にスーパー戦隊ものが大好き。園ではヒーローごっこをして遊んでいました。そんな時に読み聞かせをして、一緒に楽しんだ思い出の一冊がこの本です。

「ちいさなたまねぎさん」は、ごく普通の台所での事件のお話です。台所にいたジャガイモさんを、悪いネズミが頭からかじってしまいます。するとかじられてしまったジャガイモさんを、ニンジンさんとたまねぎさんがなぐさめ、キャベツさんが包帯をまいて優しく見守ります。そしてニンジンさん、たまねぎさんや食器たちが、ジャガイモさんの「かたき」を取ろうとします。一致団結して食器たちは、悪いネズミと戦いますが、戸惑ってしまい簡単にネズミにやられてしまいます。ネズミはいい気になり、ニンジンさんたちのこともかじろうとして歩き回ろうとします。そこにスーパーヒーローのたまねぎさんが立ち向かいます。悪いネズミはたまねぎさんのことも頭から「ガブリッ」とかじりま

があります。妹が生まれてからはお兄ちゃんとして、この本を読み聞かせてくれていた日が、今は懐かしく思い出されます。



ほっと
ひといき



『小さなVサイン アカハネナガウンカ』

佐々木泰弘

ピンクの体に、可愛らしいたれ目に見える顔といった目立つ姿をしています。ススキ原で見つけることができますが、分布は局地的です。水戸市の森林公園などが知られていますが、常陸太田市内でも金砂郷支所付近で出会うことができました。姿は派手ですが大きさは4〜5mmしかなく、とても小さくて見つけるのは大変です。撮影にもすぐ逃げてしまいますので根気がいります。ススキを静かに覗いて見てください、小さなVサインをした妖精に会えるかもしれません。

ちよつと
ひといき

『山のcafe sasahara』

取材 塩原慶子

町屋地区にまたひとつ素敵な場所がオープンしました、「山のcafe sasahara」。このカフェは一般社団法人山里舎が運営しており、特別支援学校や介護事業・障がい者支援事業所等での勤務経験を持つオーナーさんたちが、障がいのある方たちの就労の機会の提供を目的として設立したものです。

西河内地区にあったオーナーさんのご実家を改装、和風のたたずまいにセンスのひかる家具が並んで、静かにお客様を迎えてくれます。テーブルやコースターなどもオーナーご家族の手作りです。

「つながりで集いの場を作る」「違

いを受け入れられることの心地よさを感じられる場所としてありたい」、との願いをこめられた山のカフェ。地元の野菜やお米を使っている週替わりのランチ(サンドイッチやごはんプレートが中心です)やコーヒー・ケーキと共に美しい山里の景色と静かな時間をお楽しみください。



住所/西河内中町630-1 電話・FAX/0294-78-0770
○カフェの営業時間
火曜日～土曜日 11:00～14:30(L.O 14:00)
○就労継続支援B型事業
サービス提供時間
火曜日～土曜日 9:00～15:00

新太田点描 22

了誉上人と直牒洞

浄土宗中興の祖と言われている了誉上人は、金砂郷地区松栄町久慈川の対岸、当時の那珂郡上岩瀬村にあった岩瀬城の城主白石志摩守の子として暦応四年（一三四一）に生まれた。時あたかも南北朝の戦乱期にあり城は落城して父は死亡し、幼かった了誉は戦禍から逃れて瓜連の常福寺に入り了実上人に弟子入りした。

その後、諸国を巡り名僧・高僧のもとで修業に励み、やがて故郷に戻り久慈郡松栄村の香仙寺裏山の洞窟直牒洞に籠もり浄土宗の教義確立のための研究と著述に専念した。

法然上人を開祖とする浄土宗は、それまで民衆の間では俗宗・俗教等の認識でしかなく独立した仏教宗派としてはみなされていなかったが、了誉上人の功績によって宗派の確立がなされたとされている。

ところで、了誉上人は子供の時から額に三日月の形をした傷があったので別名を三日月上人とも云はれていた。上人が直牒洞で読書や著述に専念していて辺りが暗くなると、額の三日月から光を発したので暗闇でも何等の妨げにもならなかったという。

元中四年（一三八七）了誉上人は、了実上人の跡目を継いで常福寺の第二世となり次いで江戸伝通院の住職を務めるなどして浄土宗教義の研究発展と布教活動、弟子の育成等に携わり、

応永二十七年（一四二〇）その生涯を閉じている。享年八十歳。

さて、時は移り江戸時代になると文政五年（一八二二）、了誉上人の生涯と活動を世間に広めるために方誉上人によって『伝通開山了誉上人絵詞伝（乾・坤）』が編纂されている。これによって上人の功績が広く庶民の間にも知れ渡るようになった。

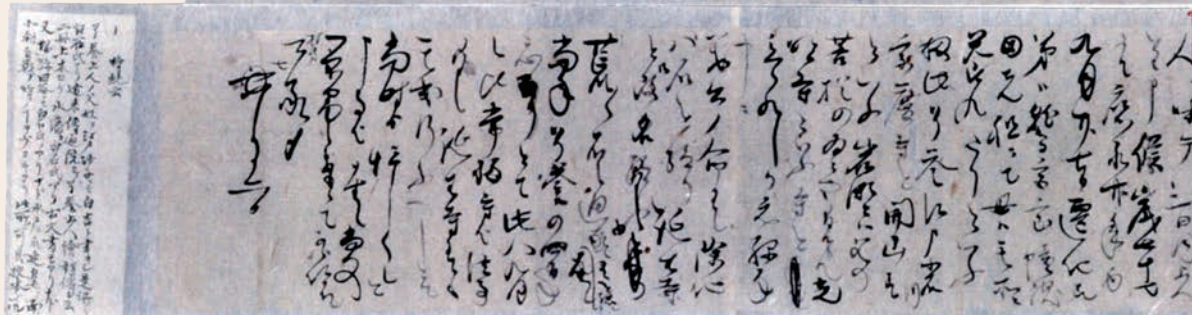
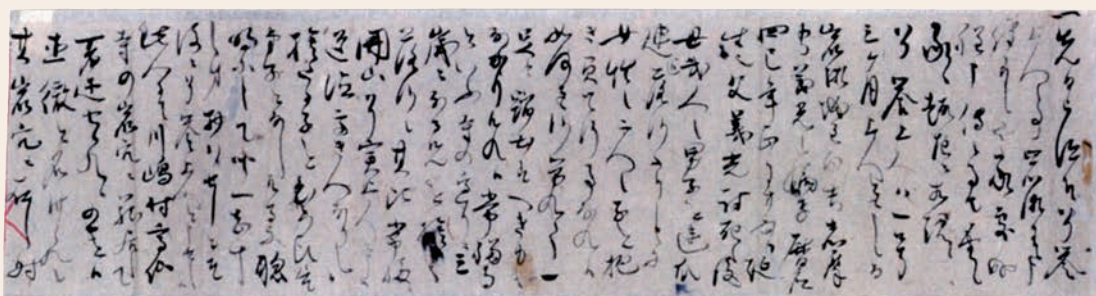
今ここに、この本の編さん時期のものであるろうか一通の書簡が確認されている。内容を掻い摘んでみると了誉上人の地元での動静について書かれているが、現在のところ宛名・差出人共に不明である。

しかし巻末には水戸の岩田咸章堂主人岩田健文の添え書きがあることや、小宮山楓軒の「水府志料―大里組―」の草稿の中から見つかっていることから差出人は、楓軒の実弟で当時大里組郡奉行だった入江忠八郎正身か、また受取人は小宮山楓軒であろう。参考までに写真を載せておく。

（吉成英文）



『了誉上人絵詞傳』の一部



了誉上人の動静を記した書簡（ひたちなか市 大山富彌氏 所蔵）